

# 平成19年度第2回三重県教育改革推進会議【議事録兼概要】

**I 日時** 平成20年1月23日(水) 14:00～16:40

**II 場所** プラザ洞津「孔雀の間」

**III 出席者** 【委員】伊藤 博和、井上 邦子、上島 和久、江崎 貴久、大西 かおり、加藤 正彦、川岡 加寿子、木本 博文、佐伯 富樹、田尾 友児、高橋 貞信、中川 弘文、中村 真子、平岡 仁、山北 哲、山田 康彦  
【事務局】安田 敏春、鎌田 敏明、東地 隆司、坪田 知広、真伏 利典、増田 元彦、山口 千代己、竹郷 秀樹、梶原 久代、中谷 文弘、丹羽 毅、小林 哲也、北原 まり子、中原 博、安田 政与志

以上31名敬称略

## IV 内容

### 1 挨拶

第1回の会議以降、それぞれの部会で熱心なご議論をいただき、感謝申し上げたい。国でも学習指導要領の改訂や教育振興計画の策定が進められ、教育再生会議からは第3次報告が出されるなど、教育を取り巻く動きがあった。本県においては第4次教育振興ビジョンがあと3年で終結となり、来年度には次期振興ビジョンの検討に入る必要がある。本日は2つの部会での中間報告をいただき、全体としてご議論いただくとともに、今後の三重の教育をどうしていくかについても、意見交換していただきたい。

### 2 報告

#### (1) 第1回三重県教育改革推進会議の概要報告について

…資料1・2に基づき、中谷室長から説明

#### (2) 学校経営改善部会の概要報告…資料3に基づき、伊藤部会長から説明

この部会の本県における学校経営改善システムのあり方について検討することを目的に設けられた。これまで2回の会議では、信頼される学校づくり、学校経営の継続的な改善システムのあり方、学校評価システムのあり方について協議をした。今後教育の質を向上させる、或いは信頼される学校づくりを推進していく上で欠かせない要素である「評価」にさらにスポットをあてる形で、検討が進むだろうと思っている。自己評価に加えて、学校関係者評価のあり方等についても検討が進んでいくのではないかと思っている。

### 3 審議事項

#### (1) 小中学校適正規模のあり方部会報告…資料4に基づき、山田部会長から説明

#### 《以下質疑応答》

##### 【委員】

「これまでの議論のまとめ」で、第1回の三重県教育改革推進会議の意見も部会の報告となっているが、この意見がどのように議論に絡んでいるのか教えて欲しい。また「友人関係の固定化や序列化」という言葉があるが、これは誰々より誰々の方が仲が良いとか、そういう意味の序列化なのか。

**【部会長】**

この部会の1回目に、まず委員の間で三重県の小中学校の現状について意見交換をし、ある程度認識を共有する事から始めた。その時に第1回教育改革推進会議でも同じような議論を行ったので、どんな議論が出たのか紹介しながら、それを踏まえて議論した。参考にできたところについては、推進会議の議論もここに載せてまとめた。

「友人関係の固定化、序列化」という事については、小規模校では長い期間、全く同じメンバーで過ごすことになるが、そういう中で子ども同士の役割が固定化したり、場合によってはある種の序列化という事を招いたりする。人間関係が狭くなるという事が指摘された。

**【会長】**

「新しい学校づくり」という言葉がいくつか書いてあるが、この「新しい学校づくり」というのはどのような内容を持っているのか。

**【部会長】**

ここで言う「新しい学校づくり」には、新しい地域づくりも含んで学校のあり方を考えていくとか、統廃合することによって子ども同士の関係や子どもの育ちも充実していくとか、その学校の子供達にとっての学習環境、そしてまた広い意味での育ちの環境、地域の環境も含んで学校を作っていくということが込められていると理解している。

**【委員】**

このまとめでは、適正規模を下回る学校については積極的に統廃合を進めていくということか。適正規模以下の学校であれば、何を特徴にして生き残りを図ると良いのかというような点について検討されたか。

**【部会長】**

この部会は県としての一つの指針をまとめる場だと思っている。その指針を踏まえて、市町が具体的に検討し判断する、そういう支えになれば良いという立場から作っている。子どもの立場から考えた時に、適正規模という状態でないのであれば、何らかの検討は必要だろうという事から指針を示そうとしている。

**【教育長】**

本日配布した第三次の再生会議の報告に、「学校の適正配置を進め、教育効果を高める」と、この会議と非常によく似た議論が出ており、教育効果を高めるために国は望ましい学校規模を示すと言っている。従って本県の場合、この部会の議論は先行しており、しかも他県に比べても小規模校が多い県であるので、どんな議論をしてどんなまとめをしていくのか見させていただき、内容によっては国の方にも提示していきたいと思っている。

## 【会長】

教育長から国の動きも紹介されたが、「三重県は三重県で」という姿勢を示すのも意義があると思っている。部会の意見など、中間的なものを報告いただいたが、この推進会議での意見も改めて部会に持ち帰って審議し、できれば年度末を目途にまとめていただければと思っている。なお、公表するまでに推進会議が開催できないような状態であるが、まとまった事については推進会議のメンバーの方々に事前に届け、内容を確認していただけるように報告したいと考えている。

## (2) 特別支援教育部会の報告について…資料5に基づき、加藤部会長から説明

### 《以下質疑応答》

#### 【委員】

資料に「平成19年度の特別支援学級の児童生徒数が、平成10年度比で96%増」と大変に増えているデータが示されているが、この原因は何か。

#### 【部会長】

これは正直言って分からない。なぜこんなに増えるのかも議論されたが、あまり明確な結論が出なかった。発達障がいには非常に分かりにくく、今までは見逃がされて小学校へ入り、少し困った子と処理されてきた。しかし健康診断が変わり、発達障がいを早目にチェック、検診評価するシステムができつつあることから病気が分かりやすくなった。そういう子は繊細で精神的に不安定になりやすいので、不登校や家庭内暴力、いじめ、学級崩壊の何割かを占めている。非常に大きな問題で、今後も減ることはないと思う。

#### 【委員】

「通常の学級に在籍するLD・ADHD・自閉症等」という文章があるが、増えている数以外に通常の学級にも、特別な支援が必要となる子どもがいるのか。

#### 【部会長】

学校へ入る時に就学指導委員会があるが、その時点では分からないボーダーラインの子どももたくさんいる。学校に入って初めておかしいと気付くが、そういう子は通常学級に入っている。脳に起因すると考えられることから、詮索される事を好まない保護者もたくさんいる。親の相談機能もこれから考えていかないと、現場でトラブルが起きると思う。

#### 【教育長】

特別支援学級に入っていない障がいのある子どももいるが、「平成10年度比で96%増」とあるのは、あくまでも特別支援学級と特別支援学校の子どもたちをさしている。急増しているのはほとんどが知的の障がいの子どもで、その原因は医療の発達もあるが、一概に言えない。社会の認知度、理解度が高まってきたなど、いろいろなことが考えられる。本県の場合、かなり積極的に学級づくりをやっているのも、それも多い要因ではないかと思う。特別支援学校には高等部の生徒が多いが、名前も変わり期待度が高まり、こういう極端な数字が出ていると思っている。LD・ADHDは、まだ実態がよく分かっていない。今回新しく制度改正があって特別支援教育の対象になったが、障がいのある子どもとは言わず、ほとんどは通常のクラスの中で対応していくことになる。調査をして把握することができないし、保護者の方も含めて認めてもらえないこともあり、これから大きな課題ではある。

#### 【委員】

特別支援教育そのものが大事な要素になってくるので、今後も引き続き議論をお願いしたい。県としてどのように支援してもらえるかに尽きると思う。コーディネーターの配置や選定は、担えるようなものをお願いしたいと思っている。全教職員が知識なり研修を深める必要があるが、担当をしている教員は子どもがいるから学校から出られない。近くで研修の機会を多く取ってもらうことも、大事だと思う。関連機関の連携、特に管轄が違う保育所とはきちっとやらないと、就学指導委員会等でやってもなかなかできない。研修も保育所を含めて就学前という広い形で、健康福祉部と連携してやることも大事なことと思っている。また横の連携をして機能を果たしていくと、保護者も早い時期から認識できるし指導も発揮できるので、関係する分野の結集が大事だと思う。子どもが犠牲にならないように、行政がまずリードしていかないといけない。

#### 【委員】

特別支援学級と特別支援学校と地域の学校との連携は非常に大事だと思うが、「通常の学級の中での指導はどうあるべきか」、「高校での教育はどうあるべきか」の視点でも、議論をお願いしたい。障がいのある無しに関わらず、全ての子どもに教育的なニーズがあるので、それをどの場面においてもきちっと捉えていくことが一番大事だと思う。コーディネーターには大きな責任も出てくると思うが、学校全体でそれを支えていくような校内組織のあり方についても、議論をお願いしたい。

#### 【部会長】

特別支援教育のあり方については、議論がまだ十分に煮詰まっていないこともある。普通学級にいる支援の必要な子どもたちを教育する場合、担任をしている教員全てが、知識と教育の仕方を身につける必要がある。コーディネーターに権限を持たせる代わりに、専門性を身につけることが必要だと思う。孤立しないように、近くのコーディネーターと連携しチームを組むことも必要である。担任以外の人を有効に利用し、負担を減らす方法もこれから必要だと思う。特別支援教育には入口と出口があるが、入口はいかに小さい時から発達評価するかで、出口は社会生活のレベルを上げるため、高等学校へ行く方策を考えることである。

#### 【委員】

特別支援教育については、入口で細かく子どもたちの様子を見極め、厳密につないで卒業させていく、そういうことを大事にしていけないといけないと思っている。保護者と話をした時、「以前に比べ特別支援教育は充実してきて非常に嬉しい。ただ子どもが学校に在籍している時は良いが、その後がとても心配だ。」「子どもたちが社会に出た時に、スムーズに支援してもらいながら自力でやっていくことを考えた施策を持っていかないと、本当に解決できない。」と切々と訴えてみえた。この部会から少し前へ出過ぎかもしれないが、そういうことをやっていくことは、保護者の期待に応える教育になると思う。

**【会長】**

皆さん方からいただいた意見は、改めて部会に持ち帰り審議し、可能であれば今年度末に決定していただきたい。最終のまとめを公表する段階には推進会議は開催できないが、事前に皆さんに内容を確認していただくのが当然だと考えているので、よろしくお願ひします。それでは3つ目の議題に移りたい。事務局の方から説明をしていただき、その後皆さま方からどういう所から検討していけば良いのか、お一人ずつコメントいただきたい。

**(3) 三重の教育の今後のあり方について…資料6に基づき、中谷室長から説明**

**《以下意見交換》**

**【委員】**

就学前教育を含め、それぞれの学校が連携して一貫性を持った教育をしていくことが大事だと思う。義務教育を受けるにあたって、就学前教育はとても大事であり、連携していくためには小学校の先生と就学前教育に携わっているものが、お互いにその教育を高めていくことではないかと思う。保護者を知ること、子どもたちをどう育ててきたか、又保護者はどう育ててきたのか、理解することが必要であり、小学校につないでいくことが大事だと思う。子ども一人ひとりに対して、一貫して系統立てて指導していくことが大事だと思っている。

**【委員】**

子どもたちが夢や希望を持って毎日生活できることが、一番大事だと思っている。そのためには子ども達の生き生きとした力をどうやって捕らえていくか、子どもをどうやって育てていくか、見通しを立て、目的、目標を定めながら取り組んでいくべきだと思う。学校や子どもが元気になる為には先生方がまず元気にならないといけない。そのためには教育委員会が元気にならないと困る。生涯学習の一端に学校教育があると考え、生涯学習という視点の中で、教育委員会が目標を示しながら進めていく必要がある。学校に必要なものは何なのかということ踏まえ、先生方自身も目的をしっかり持ってやっていると共に、意欲が出るような取組を支援していかないといけないと思う。家庭や地域社会が子どもをサポートできる体制を作っていく必要があるが、学校と生涯学習が一体となり、親に対する教育もやらなくてはいけないと思う。財政的にも厳しい状況の中、みんなで取り組んでいく体制をどうやって構築していくか、ということをやっているか、いかなければいけないと思う。この教育改革の会議で一つの方向性なり提言ができれば良いと思っている。

**【委員】**

今子どもに一番足りないと思うのは、体力である。確かな学力を育成することよりも、その学力が育成されるための体力のことを、もう少し入れていただきたいと思う。忍耐力も無い。高校生ガイドを募集し将来の職業として話をしていると、その時は意欲的になるが、そのモチベーションが続かない。集中力がもたない。私たち30代よりも体力が無くてなかなかついていけないという実情である。

### 【委員】

小中学校統廃合というのは、地域の教育力の特色を左右するような問題だと実感している。以前は小さい所は統合した方が経済的無駄がないと考えていたが、そうとも言い切れないと感じるようになってきた。小規模校では地域の教育力があり、しっかりとした教育を展開している学校もある。一方、過小規模に陥ると健全な教育環境が保てないという問題点も浮き上がっている。どちらを取るかジレンマを感じることもある。中間報告の中で「配慮することが望まれる」という記述があるが、三重県らしさを残すには、こういう観点は重要になると感じた。今後具体的な数字を示していくことになると思うが、鹿児島では統合せず小学校を全て残すと聞いた。経済的問題も解消しながら、三重県らしさを打ち出すような議論をしていきたいと考えている。

### 【委員】

突然切れたりする子どもがいるが、原因を考えると、今まで伝わってきた日本の伝統的スタイルがどこかで途切れているのではないかと思う。それは、社会風紀や子どもの環境が変化したことが大きいと思う。なぜ突然切れるのか、教師も分からないし親も分からない。ましてや同じ年頃の子どもにさえ時々理解できない。相手を理解できないというのは、伝統として受け継がれてきたことが社会力として発揮できない状況になっているということだと思う。それを教育でどこまで改善できるのか考えると、地域でサポートできないかとなる。例えば田舎の小規模校で、社会と一体となって教育できるというのは、良いチャンスだと思う。それと共に、日本の学力はこのままで良いのかという気がしている。ある程度学校の中できちっと基礎的な学力が付き、伸びる子は伸びるといえることができるよう、教育システムを変えないといけない。小さい学校は小学校と中学校を一緒にして学校を維持する。その代わり、少子化に合わせた分だけ濃い教育ができるという考え方をしてはどうか。今までの投資を更にもう少し濃くするという考えはどうか。

### 【委員】

①資料6の中に、特別支援教育に関連した課題を挙げて欲しい。

②広い意味でのキャリア教育の充実というのが本当に必要ではないかと思う。教員は子どもの成長を支援し、途切れることなく確実に次につなげていくという視点が大事であると改めて感じた。

③学校が地域コミュニティの拠点として機能することは大事だと思う。それぞれの地域の良さを活かしながら、縦割りや横割りの良いところの関係を作りあげていくと、具体的なものが見えてくるのではないかと思う。

④「学校に求められるもの」とあるが、「学校が求めたいもの」もある。くるくると政策を変えられて苦勞するのは現場である。全体的な改定も場合によっては必要でもあるし、良いかとも思うが、もっと教育現場がやりやすい仕組みにならないものかとも思っている。もっと現場に近いところに動きやすいような権限や財源を求めたいと絶えず思っている。

⑤資料6が中間まとめとして外に出るのか。まとめとして出るのならば、そのスタイル、まとめの持つ性質を教えて欲しい。

### 【委員】

特別支援学校のPTA会長と話をした時、「子どもの生死に向き合って行き詰まっている家庭がある」という話を聞き、ショックを受けた。「学校が休みの日は、両親が一日中子どもと向き合い、精神的負担が大きい」という話もあったが、それを支えるのは地域であり、行政や学校がサポートしていく必要があるのではないかと思った。

PTAとして、昨年公立高校2年生3800人に、アンケートをとった。「あなたは何が一番楽しいですか」という問いには、「友達と喋っていること」、「あなたは何が一番つまらないですか」という問いには、「学校へ行って勉強している時」、そういう意識が大半を占めた。「1日どれ位勉強しているのか」という問いには、「全くしない」「1時間位しかしない」、という回答が80%となっている。なぜ子どもたちの学習意欲が落ちてきているのか、結果を見て驚いた。今高校の教育に、何か魅力が欠けているのではないかと思った。

### 【委員】

小中学校適正規模の部会に参加していることから、地域の人から「小規模校の中では子どもが育たないから、ある程度統廃合しても良いじゃないか」、「せめて小学校ぐらいは近くの学校に行かせてあげたい」、「この学校が無くなると、地域も全然なくなってしまうから、無くさないためにはどうしたら良いのか」というような意見をいただくが、「地域に学校を残して欲しい」というような言い方だけでは厳しいと話している。地域や保護者として学校を残すために何をするか、どのような魅力のある学校作りをしていくのか、みんなで考え「地域もこのような形にするから県や市も協力して欲しい」という具体的な形を挙げていかないと、厳しいと話している。

「東紀州以外は障がいの子どもの数が増えている」という説明があったが、確率としてはどの地域でも同じではないか。それが北勢地域に集中して増加しているというのは何かの影響があるのかと思った。逆に東紀州のような小規模校では、目配りが効いて多少の障がいであれば普通の子供達と一緒に対応できており、人数が少なくなっているのかと思った。今後何か調査するにあたり、生かしていただければと思う。

### 【委員】

三重県の場合海外に拠点を持っている大きな企業がたくさんあるが、今後起こってくるだろうと思われるのが、帰国子女の問題である。海外に拠点のある企業で、高校生ぐらいの子どもを持つ社員全員が、ある意味で子どもの問題を抱えている。海外勤務が長く、日本へ帰国したが子どもが日本語ができず、どこへ行って就学したらいいかわからない。そういう状況も視野に入れて、今後教育施策を考えていただきたいと思っている。

### 【委員】

資料6については、これ全てを三重県らしさをもって話し合っていくべきだろうと思っている。学習指導要領改訂に向けて、それぞれの現場でどのように教育課程を作っていくかが、今後の課題になると思う。それぞれの地域や子ども達の実態に合わせカリキュラムを作っていくことになると思うが、そのための教職員の体制や学び合い、教員以外のスタッフも専門性を発揮し、どうまとまって教育活動を支えていくのか、議論していかなければいけないと思う。またそのための支援も、行政にお願いしていくべきだと思っている。

**【委員】**

ある自閉症の子どもを持つお母さんに、病院に行くよう何度も勧めたが、一切行かなかった。しかし子どもが小学校に入る頃から、みるみる変わってきた。担任の先生が子どもと母親を支えてくれ、いろいろな話を私たちにもするようになった。子どもの病気のことを頭では分かっているが、本当に心に入ってくるまで時間かかる母親もいる。悩んでいる保護者はたくさんいる。親にも時間がかかるという事を知って欲しい。彼女を大きく変えた先生のように、支える力が必要であるという事も知って欲しい。

**【委員】**

教育長の挨拶に、「国のいろいろな施策を県でどう受け止め実施していくか、今後の三重の教育をどう進めていくか考えていきたい」とあり、教育現場を預かる者としてありがたく力強い抱負だと感じた。教育改革推進会議等の中で「三重の教育」を進めていくという観点で、議論を継続して欲しい。資料6に「外国人児童生徒等の教育の充実」が挙げられているが、1990年代の入管法の改正以来、外国人の子どもたちが三重県でもどっと増えているという現状がある。総務省の方も、多文化共生社会の実現に向けてようやく重い腰を動かし始めた状況である。とりわけ三重県では、いろいろな課題を今教育現場が抱え、重い課題もある。これを教育の大きな課題として今後取り上げて欲しい。

**【委員】**

資料6に「社会全体で教育の向上に取り組む」とあるが、若干ぼやけすぎていると思う。三重県として現在どのようところが関わっていて、さらにどういうところが関わらなければならないか、そのためにどのような形で入り込むことができるのかということ、もう少し明確に議論し、その結果を出して皆さんから意見を求めるような場が、あれば良いと思う。具体的に何を求め、どのような取組を望むのか明確に持っていないと切り込んでいけない。もう少しいろいろな事で具体化できると思う。ここにメスを入れると、三重の教育はもう少し変わってくるのではないかと思う。

**【委員】**

①学力を支えるコミュニケーション力に問題がある。教師になっていく学生自身にも、十分なコミュニケーション力がない。「三重の学校で育った子どもたちは社会性なり、コミュニケーション力がある」と言われるような教育を、課題に加えて欲しい。

②学校というのは地域から浮いてはいけないと感じた。地域づくりと結びついて学校が存在していくと痛感させられてきた。それは新しく地域を作っていく中で、そこに学校が位置づいていく、そういう方向について議論できたら素晴らしいと思っている。

③今先生の資質向上が求められていると思う。教員の養成、採用、採用後の研修を一貫して考え、教師としての力量の目標を考え、若いうちから育成していく取組みが全国に幾つかある。最終的には学校全体の教育力を向上させ、リードする力量のある先生を作っていくことも課題であるので、そういう事を踏まえた「現職も含めた教員の資質向上・養成」について、議論を進められればありがたいと思う。



### 【委員】

①確かな学力の育成が大きな課題だと思っている。1つは計ることのできる学力、もう1つは計れない学力もあると思う。学習意欲とか計れない学力も含め、向上させる対策が必要な時期ではないかと思う。国立教育政策研究所の行った17年度の教育課程実施状況調査を見ると、高校生の4割が学校以外では全く学習していない。学校の授業以外ではゼロに近い状態が4割、憂慮すべき状態が起きていると思っている。基礎学力の定着に加え、彼等を学習に向かわせる努力、学びからの逃避を防ぐ手立てが学校関係者に求められているのではないかと思っている。

②確かな倫理観と実践力を育成することが求められているのではないかと思っている。

### 【事務局】

部会のまとめは皆さんの意見を集約しながら今年度末、あるいは来年度に何らかの形で推進会議の報告として教育委員会に申し送りたいと思っている。それが今後の施策に反映していく基本的なスタイルである。全体の推進会議の大きな課題のまとめをどうしていくのかも含め、次年度以降また協議をお願いしたい。

### 【会長】

どうもありがとうございました。今後のこの推進会議のテーマについて、今日のご意見を事務局と私の方でまとめさせていただき、調査審議を進めていきたいと思っております。皆さんよろしく申し上げます。本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

### (4) その他

なし。

### 4 連絡事項

次回会議は、4月以降改めて開催候補日を連絡させていただく。

以上